



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●きれいなタコには毒がある

### ーヒョウモンダコー

毎日暑い日が続いています。週末には島の外からたくさんの観光客が来ますし、海で過ごすことも多くなってきていることでしょうか、用心しなければならない生き物もいます。沖縄の海の危険生物と言って一番に挙げられるのはハブクラゲでしょうか。沖縄県衛生環境研究所が出している報告書を見ると、平成 22 年度と 23 年度のハブクラゲによる被害の発生は、どちらの年も 7~8 月に集中していますから、今からが一番危険な時期という事になります。「それは本島とか八重山の話だろう」、「慶良間にはハブクラゲはいないから大丈夫」と思っている人もいるかも知れません。たしかに、以前は慶良間ではハブクラゲは見つかっていませんでしたが、ご存知のとおり、去年の夏、古座間味でハブクラゲと思われる被害が

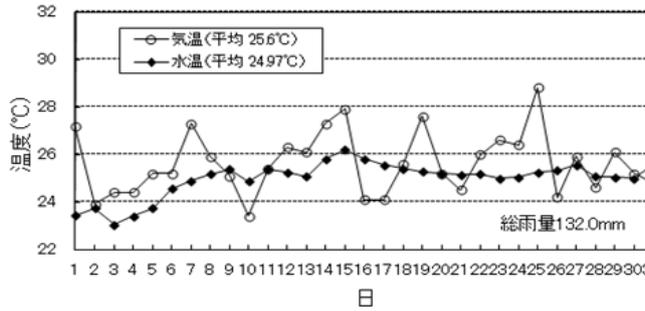
おきましたし、阿嘉島では実際にハブクラゲが見つかりました。数はとても少なかったのですが、慶良間で増えているのではないと思っていますが、万が一という事もありますので用心をおこたらないでください。もしも、ハブクラゲを見つけたら、ぜひ研究所にも教えてもらいたいと思います。

さて、ハブクラゲの話が長くなりましたが、今回お話ししたいのは別の生き物です。けれども、ハブクラゲと同じように強力な毒をもった危険な動物ですから、同じように注意が必要です。名前は、ヒョウモンダコと言います。興奮すると黄色い体に鮮やかな青い輪の模様が浮かび上がるので、「豹紋蛸<sup>ひょうもんたこ</sup>」という名前がつけました。体長は 10cm 程度の見た目には美しいタコです。

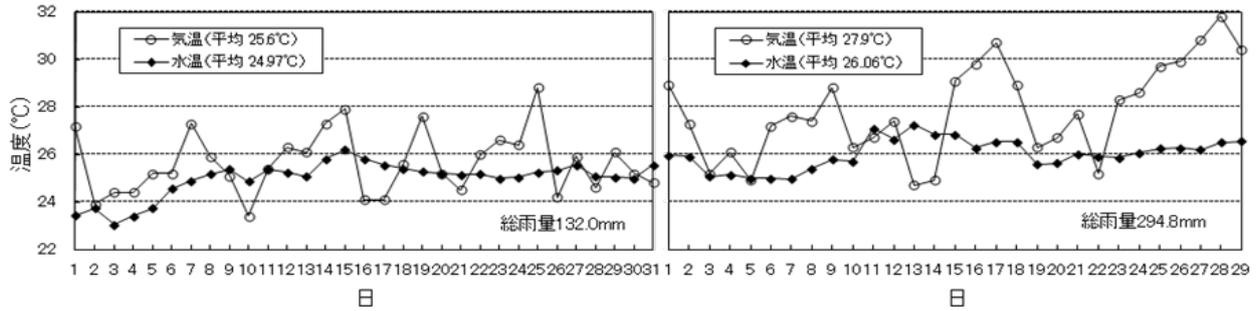
このきれいなタコのことは、これまでに慶良間の海で数年に一度くらいしか見たことがなく、ちょっと残念な気持ちもありましたが、逆にほっともしていました。というのは、先に書いたように、このタコが強い毒を持っているからです。フグと同じテトロドトキシンという毒で、その唾液<sup>だえき</sup>に含まれています。タコの仲間は、エビやカニなど固い殻をもった動物を餌にすることが多いせいか、口には「からすとんび」と呼ばれるくちばしのようなものをもっていて、かまれると鋭いキズがつきます。ヒョウモンダコの場合には、その時に獲物の体内に唾液の毒

## 定点観測

2012年5月



2012年6月



が入ってしまうのです。一説では、人に対してのその毒の強さは、猛毒である青酸カリの 850 倍以上とされています。この毒が人の体に入ると、まずかまれたところが麻痺し、やがて呼吸困難や意識不明を起こし、ひどい時には死に至ります。「ああ、この毒で獲物をしとめるんだなあ」と思っていたのですが、調べてみると、どうやらテトロドトキシンはタコの好物のエビやカニには効かないらしく、魚や他の動物に使うための毒のようで、外敵から身を守ることが目的の一つなのでしょう。ちなみに、ヒョウモンダコの唾液にはエビやカニに効く別の毒も含まれていますし、時には魚などを捕えることもあるでしょうから、唾液の毒で獲物をしとめるというのも間違いではないようです。

ヒョウモンダコの鮮やかな青い模様は、“自分は毒を持っているぞ”と他の動物を恐れさせる警戒色と考えられています。その毒に、自信があるせいでしょうか、他のタコたちが身を守る時に使うスミ（逃げる時にはいて、敵に目くらましをする：アムスルだより No.35 に少しだけ書いてあります）が、このヒョウモンダコにはないのです。そう言えば、海の中で出会った時も、他のタコならば、けっこう大きなものでも、シュッと岩かげに逃げ込むか、まわりの景色にとけ込むように色や形を変えてじっとしながらやり過ごそうとするかのどちらかなのですが、

ヒョウモンダコの場合は、目立つ色をしたまま、ふらふらと泳いだりはったり、岩の上で止まっていたりして、あわてて穴に逃げこもうとはしていませんでした。これも自分の毒への自信のあらわれなのかもしれません。けれど、そんな猛毒を唾液の中にもっていて、ヒョウモンダコはなぜ自分の毒で死なないのでしょうか。同じテトロドトキシンをもっているフグは、他の動物にはない細胞の化学的な仕組みで毒が効きにくいようになっているのですが、もしかしたら、ヒョウモンダコにも同じような仕組みがあるのかもしれない。

今回ヒョウモンダコを紹介したのは、実はつい先日マジヤノハマで 10cm ほどの親のヒョウモンダコを見かけたからです。また、その数日後にはその近くでウンバチイソギンチャク（詳しくはアムスルだより No.32 を見て下さい）も見ました。生き物も多く魅力的な海ですが、危険もあります。どうぞ気をつけて楽しんで下さい。

## ● 阿嘉島の海より

6月10日、今年も阿嘉島のマジヤノハマでサンゴの一斉産卵がみられました。今年で8年目となる阿嘉小学校の産卵観察会ですが、今年は1日だけ日程が合わず、残念ながら海での産卵観察はできませんでした。来年は是非見てもらいたいです。